

は易く至ること能わず、その脈脈はあるがままに置かれていた。だが、今は畑という畑の水が涸れ、華の人々も涸れ、飢餓にうめき苦しむ子どもらひどく不憫なことよ。そこで命じられたが、その地に暮らした農民、庶民に川を作れと、河を耕し地下より水を引いてきて、人を潤せ、我が身を潤せ、命じられ、駆り出されるは男おとこ！ 父さん、兄君、弟君は白い衣に白いポタ、天脈水源この地に引いて、石より成る地を鋤で耕す。ガツリガツリと掘れども土はどこまでも深く石だらけ、わたしあ女おんなで何も何でも掘ったりしないが、暑い日照りにぐらねる子どもの哀れなことよ。女おんな家人は取り残されて、西も東もわきまえ知らぬの河は二十七を作るとて、河は掘っても石の皮、日照りの下では人は皮裂け、父の皮裂け、ああ勞しい、ああ勞し、勞し、見えない水は命を見捨てる、見えない川を作る父、父を見張るは監視員ザイラムたち、見えない川を見張る目に、裂かれた皮膚は見えなからう、うめく父も見えなからう、父は灼かれて帰らなかつた、二度とは家に帰らなかつた、取り残された子どもの不憫よ、女おんなの哀れよ！ 命を助ける水がある。命を助ける水がある。命を助ける水がある。命を助ける水がある。命を助ける水がある。

だんだだんだん だんだだん
だんだだんだん だんだだん

だんだだんだん だんだだん、かわア 掘ってりや りやゝ

だんだだんだん だんだだん、かわア 掘ってりや りやゝ

だんだだんだん だんだだん、鋤っこ はねて ぶつかつて

だんだだんだん だんだだん、石っこ はねて ぶつかつて

だんだだんだん だんだだん、水のひとつも出てきやしない

だんだだんだん だんだだん、いくら掘っても石だがね

だんだだんだん だんだだん、スクラップアンドビルドのお命さしあげて

だんだだんだん だんだだん、やつら見てるよ じろりと睨んで

だんだだんだん だんだだん、ふりかえれずのお家には、ひもじい子どもと

妻が待つ

だんだだんだん だんだだん、かわア 掘ってりや りやゝ